



平成 29 年 7 月 24 日

各 位

会社名 株式会社デ・ウェスタン・セラピ°テクス研究所
代表者名 代表取締役社長 日高 有一
(コード番号:4 5 7 6)
問合せ先 取締役総務管理部長 川上 哲也
TEL 0 5 2 - 2 1 8 - 8 7 8 5

「H-1129」の再生医療への応用に関する 共同研究契約締結のお知らせ

当社は、医薬品事業会社（以下、「当事業会社」）と「H-1129」に関する共同研究契約（以下、「本共同研究契約」）を本日締結いたしましたので、お知らせいたします。

今回、当事業会社より、当社創製品で緑内障治療剤として開発を進めている「H-1129」について、再生医療等製品の研究開発へ利用したいとの申し出がありました。

本共同研究契約では、当社は当事業会社に「H-1129」のサンプルを提供し、当事業会社において、有用性を評価いたします。共同研究の詳細及び当事業会社の社名につきましては、競合上、非開示とさせていただきます。なお、共同研究期間は3年間で、当社は再生医療等製品の開発を行うわけではなく、サンプルを提供するのみとなっております。

本共同研究を通じて、当社創製品の新たな可能性の創出、並びに再生医療の発展に貢献することを期待しております。

なお、本件による平成 29 年 12 月期業績予想の変更はありません。

「H-1129」は緑内障・高眼圧症を適応症として、ヒトへの投与が行われており、その安全性が確認されております。

当社は、「H-1129」に関し、他疾患の適応に向けて、滲出型加齢黄斑変性症及び増殖型糖尿病網膜症に対する治療効果の研究を進めており、その有効性が動物実験において示されております。今後はこれら他疾患の適応に向けた研究開発に取り組み、眼科領域におけるパイプラインの拡充及びパイプラインの価値向上に努めてまいります。

H-1129 について

プロテインキナーゼ阻害剤^(注1)を中心とする当社化合物ライブラリー^(注2)のリード化合物を基にして最適化された、緑内障・高眼圧症を適応症とする開発品です。各種プロテインキナーゼ^(注3)を阻害する他に、熱ショックタンパク質^(注4)の Hsp90 に結合することが確認されており、その結果、線維柱帯-シュレム管を介して主流出路からの房水流出を促進し眼圧を下降させることが示唆されております。

「H-1129」は、平成 25 年 3 月にわかもと製薬株式会社(以下、「わかもと製薬」)に、緑内障領域に関する日本の権利をライセンスアウトしており、平成 29 年 3 月に国内第 I 相臨床試験が良好な結果で終了いたしました。現在、国内第 II 相臨床試験に向けた準備が進められております(わかもと製薬開発コード: WP-1303)。

さらに、海外の権利については、国内医薬品事業会社へオプション権を付与しており、現在評価が行われております。

以 上

用語解説

(注1) 阻害剤

生体内の様々な酵素分子に結合して、その酵素の活性を低下若しくは消失させる物質を指します。化学物質が特定の酵素の活性を低下若しくは消失させることにより、病気の治療薬として利用されることがあります。

(注2) 化合物ライブラリー

化合物ライブラリーとは、当社が長年にわたり蓄積してきた新薬候補化合物のタネとなる化合物群です。これらの化合物の一つ一つが特徴的な性質を有しており、基礎研究や新薬候補化合物発見に利用されます。

(注3) プロテインキナーゼ

ATP(アデノシン三リン酸と言われ、体内で作られる高エネルギー化合物)等、生体においてエネルギーの元となる低分子物質等のリン酸基を、タンパク質分子に転移する(リン酸化)酵素です。一般にリン酸化を触媒する酵素をキナーゼと呼び、特にタンパク質をリン酸化するキナーゼをプロテインキナーゼと言います。

(注4) 熱ショックタンパク質

細胞が熱等のストレス条件下にさらされた際に発現が上昇することで細胞を保護するタンパク質の一群であり、「Hsp90」などのように、それぞれの分子がその分子量に基づいて名づけられています。